# 令和７年度静岡県献血推進協議会議事録

| | |
|---|---|
| 日　時 | 令和８年３月12日（木）　午後１時30分から３時00分まで |
| 場　所 | 静岡県男女共同参画センター「あざれあ」２階大会議室 |
| 出席者 | 別紙のとおり |
| 議　題 | (1)報告事項<br>ア　令和７年度の献血の状況<br>イ　令和７年度静岡県献血推進計画に基づく事業の実施状況<br><br>(2)協議事項<br>令和８年度静岡県献血推進計画（案）<br>ア　献血により確保すべき血液の目標量及び献血者確保目標人数について<br>イ　目標量を確保するために必要な措置及びその他献血の推進に関する重要事項について |
| 配布資料 | (1) 令和７年度静岡県献血推進協議会資料<br>(2) 令和７年度静岡県献血推進協議会（参考資料編）<br>(3) 献血インフォメーション（リーフレット）<br>(4) 血液事業の現状（冊子）<br>(5) ＡＢＯニュース（冊子）<br>(6) 愛のかたち献血<br>(7) 令和６年度静岡県赤十字血液センターの事業概要（令和７年度版） |

# 令和７年度静岡県献血推進協議会出席者

| 氏　名 | 所属・役職 | 備考 |
|---|---|---|
| 青木春美 | 公益社団法人静岡県看護協会理事 | 委員 |
| 池本美智子 | 静岡県商工会連合会（静岡県商工会女性部連合会理事） | 委員 |
| 内野浩恵 | 特定非営利活動法人静岡県男女共同参画センター交流会議副代表理事 | 委員 |
| 浦田千裕 | 公益社団法人静岡県薬剤師会理事 | 委員 |
| 遠藤香代子 | 静岡県民生委員児童委員協議会監事 | 委員 |
| 大石万鈴 | 静岡県学生献血推進協議会委員 | 委員 |
| 京極仁志 | 日本赤十字社静岡県支部事務局長 | 委員 |
| 櫻町宏毅 | 日本労働組合総連合会静岡県連合会副事務局長 | 委員 |
| 鈴木啓嗣 | 静岡県議会厚生委員会委員長 | 委員 |
| 泉明寺葉子 | 静岡県地域赤十字奉仕団委員会副委員長 | 委員 |
| 仁科喜世志 | 静岡県町村会（函南町長） | 委員 |
| 藤原学 | 社会福祉法人静岡県社会福祉協議会常務理事 | 委員 |
| 森英子 | あけぼの静岡　副代表 | 委員 |
| 森林多恵 | 一般社団法人静岡県商工会議所女性会総務委員会委員 | 委員 |
| 吉原隆 | 公益社団法人静岡県私学協会（静岡女子高等学校校長） | 委員 |
| 米倉克昌 | 健康福祉部生活衛生局長 | 県関係（知事代理） |
| 佐野充夫 | 健康福祉部生活衛生局薬事課長 | 県関係 |
| 中村孝寛 | 健康福祉部生活衛生局薬事課技監兼課長代理 | 県関係 |
| 中村太輔 | 健康福祉部生活衛生局薬事課薬事企画班長 | 県関係 |
| 新井健央 | 健康福祉部生活衛生局薬事課専門主査 | 県関係 |
| 杉本明央 | 健康福祉部生活衛生局薬事課主査 | 県関係 |
| 神納勇 | 健康福祉部生活衛生局薬事課主任 | 県関係 |
| 山口美知子 | 教育委員会健康体育課教育主幹 | 県関係 |
| 北折健次郎 | 静岡県赤十字血液センター所長 | 日本赤十字社関係 |
| 北村淳也 | 静岡県赤十字血液センター事務部長 | 日本赤十字社関係 |
| 村上優二 | 静岡県赤十字血液センター沼津事業部長 | 日本赤十字社関係 |
| 籏持俊洋 | 静岡県赤十字血液センター事業推進部長 | 日本赤十字社関係 |
| 谷川昌平 | 静岡県赤十字血液センター事業推進副部長兼献血推進課長 | 日本赤十字社関係 |
| 橋本秀樹 | 静岡県赤十字血液センター浜松事業所学術情報・供給課長 | 日本赤十字社関係 |
| 曽根　渉 | 静岡県赤十字血液センター企画総務係長 | 日本赤十字社関係 |
| 牧野　栞 | 静岡県赤十字血液センター主事 | 日本赤十字社関係 |
| 成岡　亮 | 日本赤十字社静岡県支部経理係長兼指導係長 | 日本赤十字社関係 |

## １　協議内容

次の事項について、関連資料に基づき事務局から説明した。

### (1) 報告事項

#### ア　令和７年度の献血の状況

○献血受付者数

・今年度１月末時点で117,212人（目標14,1000人に対し83.1%）

・昨年同期比では、1,798人の増加

○種類別献血者数

・200ml献血は減少（インフルエンザ流行拡大の影響により高校生献血者の減少）

・400ml献血と成分献血は増加

・年度末には前年度並みの実績見込み

○年齢別献血者数

・20代、50～60代は増加し、10代、30～40代は減少

○ラブラッド登録状況

・順調に増加し、今年度１月末時点で96,077人が登録

○高校の学校献血

・今年度１月末時点で、県内136校のうち67校の協力があった

#### イ　令和７年度静岡県献血推進計画に基づく事業の実施状況

○高校生献血ボランティア「アボちゃんサポーター」事業を実施

・県内の18校168人の高校生をサポーターに委嘱し、啓発活動を実施

・三島北高等学校の生徒が作成した動画が厚生労働省の発表会で優秀賞を受賞

○大学生ボランティア（85名）への講習会開催と活動の支援

・東・中・西部各地域の学生ボランティアよりそれぞれ月平均２回程度ＳＮＳを活用し、献血キャンペーンの告知や献血の呼びかけ、献血豆知識や学内献血の案内等を情報発信を実施

○幼少期の子供とその親を対象とした普及啓発対策を実施

・メディメッセージ2025に献血啓発ブースを出展し、２日間で200人以上の子供に献血クイズや模擬血の展示等を実施

○企業等への献血推進対策を実施

・献血活動に参加していない企業等へのアプローチし、新たに19の企業が献血に協力いただけた

○静岡県献血推進大会

・献血の推進に多大な貢献があった団体・個人を表彰し、感謝の意をお伝えした

### (2) 協議事項

**令和８年度静岡県献血推進計画（案）**

#### ア　献血により確保すべき血液の目標量及び献血者確保目標人数について

○確保すべき血液の目標量は、59,070L、献血確保目標人数は、143,000人に設定

（昨年度より2,000人増）

・全国的な血漿分画製剤の需要見込みが増加し、本県の原料血漿確保割当量の増加したことによるもの

**イ　目標量を確保するために必要な措置及びその他献血の推進に関する重要事項について**

○若年層対策

・献血セミナーの推進として、看護師がセミナーに同行し献血への不安の解消、ラブラッド事前登録会の実施、昼休みや学校献血実施前にショート動画の放映を行うなどセミナーコンテンツの充実を図る。

○幼少期の子供とその親を対象とした普及啓発対策

・夏休みを利用した血液センター・献血ルームの親子社会見学会開催し、親子で献血へのふれあいの場を提供する。

○複数回献血対策

・「初回献血者に対して、重点的に継続的な献血協力の呼びかけ」が国の計画で加わったことから、一定期間内に２回目の献血の協力いただいた方には、特典を付与することで、継続的な献血へ繋げていく。

**２　委員からの質疑等**

**(1)　報告事項に関する質疑応答**

（櫻町委員）

○高校生献血が頭打ちに見える点について（資料p9、11）

・献血推進活動は一部では盛り上がっているが、県全体に広がっていないと推測される。高校生の献血者数がなかなか伸びていないのは残念である。

○企業での献血について（資料p14）

・昨年度、製造工場などの協力を得るためには、献血バスの配車時間帯の工夫や多部署での協力依頼を提案したが、１年経過してどの程度新しい企業に協力いただけたか。

（県薬事課）

・静岡県の校内献血実施校は、令和６年度は全136校のうち72校に協力いただいており、全国でも第５位という状況である。

・アボちゃんサポーターは献血へのきっかけ作りであり、校内献血の実施と合わせて、裾野を広げていきたい。

・毎年、血液センターでは10校以上の献血未実施校への訪問活動を行っている。

・県と教育委員会で意見交換する場を活用し、高校生のさらなる献血に繋げていきたい。

（血液センター）

・今年度、新たに19の企業に献血の協力をいただけた。また「令和６年度静岡県赤十字血液センターの事業概要（令和７年度版）」ｐ18に献血協力団体の一覧がある。この一覧は、献血バスの配車に協力いただけた企業だけでなく、近隣企業からも参加いただけた場合は、その企業も協力団体として記載させていただいている。

・毎年、薬事課・保健所と一緒に県内全市町を訪問し、献血の協力依頼をしている。その際に市町の担当者から新規企業情報や系列企業等の紹介をいただいている。
・製造ラインの交代の時間帯や点検・清掃による工場全体のラインが停止する日に献血バスを配車するなど企業の要望に応じた工夫を行った。

（大石委員）
・幼少期の子供とその親を対象にしたメディメッセージへの出展は興味深く、学生ボランティアとしても、何らかの形で関わることができたら嬉しい。
（血液センター）
・大学生ボランティアに御協力いただけるということであれば、一緒に広報活動ができればと考える。

（吉原委員）
・高校生の献血者数減少は、そもそも高校生の数自体が激減している状況を反映した資料にするとよい。

**(2) 協議事項に関する質疑応答**
（内野委員）資料p17
・親子向けの啓発はよい。幼少期向けの啓発活動では、リアルすぎる表現は避けて、例えば、病気や怪我をした方が輸血により、病気や怪我が治っていく様子を動画などを用いて、楽しく学べるような工夫があるとよい。

（森委員）
・高校生がアボちゃんサポーターとして頑張ってくれているが、卒業したら終わりとなってしまう。献血に継続して協力いただくためには、もっと町の中で目に見えるような形（キャラクターを活用したラッピングバスなど）で広報できないかなと思う。
（血液センター）
・昨年も同様の意見をいただき、今年度「献血ルーム・あおば」１階の通り沿いに電子掲示板で献血コマーシャルを一日中放映した。また「献血ルーム・柿田川」でも、商業施設「サントムーン柿田川」内にある10か所の電子掲示板で献血コマーシャルを放映した。

（仁科委員）
・県内で献血された血液が、一体どのように役立ったかわかる情報があるとよい。少子高齢化で人口自体が減少していく中で、献血者を維持していくには、献血がより身近になる情報の見せ方の工夫が必要ではないか。
（県薬事課）
・献血された血液がどのように使われているかわかる資料・情報発信を検討していき

たい。

（鈴木委員）

・皆さんの連携した取組のおかげで、今年度においても献血者目標人数を概ね確保していただき、医療現場で必要とする量を不足なく供給いただいていることについて、県民を代表してお礼申し上げる。
・40歳台以下の方の献血割合が減少しているとの説明があったが、少子高齢社会となって、若者の数自体がさらに減少してくる中、できるだけ多くの方に協力いただくことが大切である。
・献血は若い頃からの経験が重要であると感じている。
・若い世代には、ＳＮＳやインターネットによる影響力は大きいので、若者の意見を聞きながら、また若者が自ら発信する取組は重要である。
・来年度も、様々な推進に向けた取組が計画されているが、若者に対して「決め手」はない。だからこそ、これまでやってきたことを継続していくことが安定的に、不足なく、確保するための最良な政策であると考える。

## ３　協議結果

・事務局が示した計画案等について、各委員からの異議等なく、原案どおり令和８年度静岡県献血推進計画が了承された。
・なお、計画については適宜内容の変更を伴わない微修正等を行い、公表及び厚生労働省への報告を行うこととした。